

向上心

2学期の終業式に子どもたちにどんなこと話そうかと思案しているうちに、ふと6月に洋野町はまゆりマラソンに参加したことを思い出しました。何の準備もなく思いつきで5kmの部に参加したのです。思いつき参加の理由は、バルセロナ五輪女子マラソン銀メダル、4年後のアトランタ五輪で銅メダルを獲得した有森裕子さんが招待選手として参加するからです。市民レースとはいえ、普段練習もしないで5kmも走ろうとするのは無謀な挑戦かもしれません。しかし、前日に有森さんの講演会があり、大会当日にはオリンピックメダリストの走りを直に見ることができる、あわよくば一緒に走れるかもしれない、と思ったからです。



有森さんは3kmの部で走ったので一緒に走るという願いは叶いませんでした。しかし、なんと、彼女は自分がゴールした後に、ゴール手前100m位の所に立ち、すべての部の競技が終わるまで次々とゴールに向かう参加者一人一人に大きな声援を送り続けていたのです。

わたしも、ゴール前、苦しい息づかいには似合わない作り笑顔で彼女に近づき、おもむろに両手を肩の高さに挙げたところ、満面の笑顔付きでハイタッチが返ってきました。

アトランタオリンピックのとき、ゴール直後にふらふらと歩きながら、青空を仰いだ有森さんの泣き出しそうな表情、そして、泣きながらインタビューに応え、「終わってから、なんでもっとがんばれなかったと思うレースはしなくなかったし、、、初めて、自分で自分をほめたいと思う。」と語った姿は今でも鮮明に覚えており、思い返すと涙が出そうになります。バルセロナの銀メダルから4年間、今度こそは金メダルをと臨んだレースで、結果的には順位を一つ下げる銅メダルで終わったのですが、もう走れないと思うほどの怪我を乗り越えたことも含め、死力を尽くして取り組んできたからこそその言葉だったのでしょう。



さて、先日、女子サッカーなでしこリーグの今年度の得点王、最優秀選手賞に輝いたINAC神戸レオネッサの高瀬愛実選手が、インタビューで「人より優れていると思う部分は？」と問われ、「『自分を認めない力』、それはネガティブではなく、「向上心」であり、もっと上手になりたいから、自分をほめたくない。」と答えたことが、新聞の記事に載っていました。

高い目標をもち、妥協のない努力を重ねる向上心が有森さんとの共通点です。高瀬選手も、やりきったと納得できたときに「初めて、自分で自分をほめたい」と思うのだろうと感じました。

一流のアスリートとは比べようありませんが、自分自身、向上心を忘れない生き方をしなければと思うしだいです。

閑話休題。子どもたちには、冬休み中に、①何か自分で決めたことを毎日続けること、②事故（交通事故、火や水の事故、心の事故）に遭わないこと、の2つを話したいと思います。